AD-5687みはりん坊Wをはじめてお使いになる方へ

本誌は、AD-5687みはりん坊Wをはじめてお使いになる時にお読みください。
本誌は、簡単に使える「おまかせモード」についての簡易説明です。
また、別紙の取扱説明書も必ずお読みください。

1. ご使用にあたって

■本製品は熱中症や季節性インフルエンザの発症を完全に防止できるものではありません。本製品は、熱中症予防の目安となる熱中症指数(WBGT)、季節性インフルエンザの感染リスクを低減させるための目安となる乾燥指数(絶対湿度)を表示する製品であり、熱中症や季節性インフルエンザの発症を防止するための医療目的に開発・製造された製品ではありません。あくまで一般的な日常生活における熱中症や季節性インフルエンザ感染の予防の目安を表示する製品です。また、季節性インフルエンザ以外のインフルエンザに対する流行の目安には対応していません。
■本製品のご使用にあたっては、上記の要因をよくご理解の上、あくまで目安としてお使いください。
■本製品を使用中、 具合が悪くなった場合は、本製品の表示にかかわらず、速やかに医師の診察を受けるなど適切な処置をしてください。
■本製品は、屋内および屋外の太陽照射のない場所で使用して下さい。太陽照射のある場所や、周囲と異なる熱源の近くで使用すると正しい測定ができません。

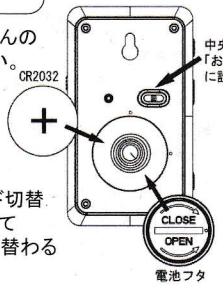
2. ご使用の前に(準備)

2-1 電源を入れて、モード設定をする。

1 ご購入時、本体には電池が内蔵されていませんので、裏面の電池収納部に電池を入れてください。自動で電源が入ります。

2 電源が入ると表示が全点灯し、約2秒後に現在の測定値が表示され、すぐにお使いになれます。

3 簡単にお使いになりたい場合は、裏面のモード切替スイッチを中央の「おまかせモード」に切り換えてください。自動で熱中症指数と乾燥指数が切り替わるモードです。



本製品には、「おまかせモード」の他に「熱中症指数モード」、「乾燥指数モード」の2つのモードがあります。これらのモードについては、別紙の取扱説明書をお読みください。

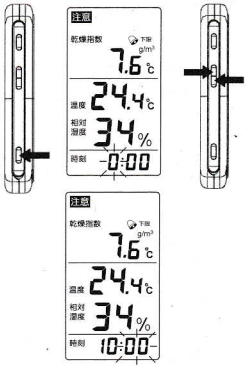
2-2 時刻の設定をする。

1 電源が入った状態で、本体左側の「時計設定」ボタンを3秒以上押し続けると、時の表示が点滅し時刻設定モードになります。電池を入れた直後は、自動で時刻設定モードになります。

2 本体左側の「▲」と「▼」ボタンを使い、時の設定をします。「▲」ボタンで1時間進み、「▼」ボタンで1時間戻ります。

3 時の設定が終わったら、本体左側の「時計設定」ボタンを押すと、分の設定になります。本体左側の「▲」と「▼」ボタンを使い、分の設定をします。「▲」ボタンで1分進み、「▼」ボタンで1分戻ります。

4 分の設定が終わったら、本体左側の「時計設定」ボタンを押すと、通常の表示に戻ります。

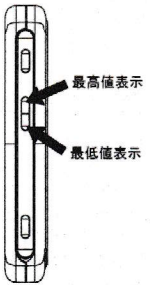


3. ブザー音の オン / オフ

本体右側のアラーム音ON/OFFスイッチを「OFF」に切り換えることで、ボタン操作時やアラーム動作時のブザー音を消音します。
スイッチを上側にするとブザー・オン、下側に切り換えるとブザー・オフになります。
アラーム動作時には、ブザー音が消音されるだけで、他のアラーム動作は変わりません。

4. 最高値／最低値表示

本製品では、電源を入れてからの熱中症指数または乾燥指数／温度／相対湿度の最高値と最低値を記憶する機能があります。
本体左側の「最高／▲」ボタンを1回押すと、各表示値の最高値が表示されます。もう一度「最高／▲」ボタンを押すと、通常表示に戻ります。
本体左側の「最低／▼」ボタンを1回押すと、各表示値の最低値が表示されます。もう一度「最低／▼」ボタンを押すと、通常表示に戻ります。
また最高値や最低値を表示中に、10秒間何もボタン操作をしないと、自動で通常表示に戻ります。



5. 熱中症指数と熱中症の予防

5-1 日常生活における熱中症予防指針の表示

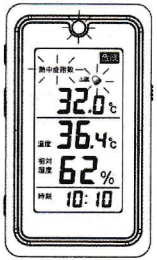
本器では、日本生気象学会 が策定した「日常生活における熱中症予防指針」に基づき、熱中症指数（暑さ指数、WBGT）の基準に準拠して、表示部の一番上に「危険」・「厳重警戒」・「警戒」・「注意」の警告が表示されます。
本製品が表示する 熱中症指数（暑さ指数、WBGT）の数値と、注意すべき生活活動の目安および注意事項について、下の表1のように日本生気象学会が熱中症の予防指針として策定しています。

表1. 日常生活における熱中症予防指針

温度基準 熱中症指数 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	全ての生活活動でおこる危険性がある	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃)	中等度以上の生活活動でおこる危険性がある	運動や激しい作業をする際は、定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	一般に危険性は少ないが、激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	一般に危険性は少ないが、激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」より転記(一部追記)
ここでのWBGT値はその日の最高気温時の気温と湿度から推定されるものである。
28～31℃は、28℃以上31℃未満の意味）

5-2 熱中症指数とアラーム動作



■ 熱中症指数が28.0℃～30.9℃に達すると表示の一番上に「厳重警戒 」と表示され、さらに
■ 熱中症指数が31.0℃以上 になると「危険 」と表示されます。
これと同時にブザー音が鳴り、
「アラームマーク」と「熱中症指数」の文字が点滅し、
「厳重警戒」の場合はオレンジ色、「危険」の場合は赤色
のアラームランプ（LED）が点滅します。
アラームランプ と ブザー音は連動し、初めに
「厳重警戒」の場合は20秒間「ピッ」「ピッ」「ピッ」・・・、
「危険」の場合は30秒間「ピピッ」「ピピッ」「ピピッ」・・・
と連続して動作します。その後、熱中症指数がアラーム範囲にある間、
1分間隔で単発的にアラームランプとブザー音が動作します。
熱中症指数が28.0℃以上では「アラームマーク 」と「熱中症指数」の文字は
ずっと点滅します。その後は熱中症指数が28.0℃未満になるまで、1分間隔で
単発的にアラームランプとブザー音が動作します。

6. 乾燥指数とインフルエンザの予防

6-1 乾燥指数(絶対湿度)とインフルエンザについて

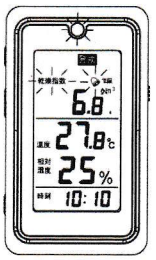
庄司眞医師(庄司内科小児科医院、宮城県仙台市)らのインフルエンザの流行と拡大に関する研究成果に基づき、財団法人　宮城県地域医療情報センターにて日本全国の都道府県におけるインフルエンザの発生状況と流行予測地図が公表されています。
インフルエンザの流行の要因として絶対湿度を用いて、表2のように絶対湿度の範囲を4つの区分に分け、空気の乾燥状態とインフルエンザの流行状態を分かりやすく表しています。本器では「表2　空気の乾燥状態とインフルエンザの流行」に準拠して、表示部の一番上に「警戒」・「注意」の警告が表示されます。

表2. 空気の乾燥状態とインフルエンザの流行

ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ対策の目安	湿度基準 絶対湿度 (乾燥指数)	空気の 乾燥状態	空気の乾燥状態とｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの流行
警戒	7g/m³以下	乾燥	空気が特に乾燥して、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞが流行しやすい状態 (ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの流行に適した湿度)
注意	7g/m³を超えて 11g/m³以下	やや乾燥	空気が乾燥してきて、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞが流行してよい状態
ほぼ安全	11g/m³を超えて 17g/m³以下	湿潤	空気が湿っていて、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの流行は非常にしにくい状況
	17g/m³以上	非常に湿潤	空気が大変湿っていて、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの流行は非常にしにくい状況

財団法人　宮城県地域医療情報センターホームページ：全国インフルエンザ流行予測より転記(一部追記)
(株)エー・アンド・デイの製品において、空気の乾燥状態を示す絶対湿度を「乾燥指数」として表しています。

6-2 乾燥指数とアラーム動作



■ 乾燥指数が7.0g/m³以下に達すると表示の一番上に「警戒 」と表示されます。これと同時にブザー音が鳴り、「アラームマーク」と「乾燥指数」の文字が点滅し、赤色のアラームランプ（LED）が点滅します。
アラームランプ と ブザー音は連動し、初めに30秒間
「ピピッ」「ピピッ」「ピピッ」・・・と連続して動作します。
その後、乾燥指数がアラーム範囲にある間、
1分間隔で単発的にアラームランプとブザー音が動作します。
乾燥指数が7.0g/m³以下では「アラームマーク 」と「乾燥指数」
の文字はずっと点滅します。
その後は乾燥指数が7.1g/m³以上になるまで、1分間隔で
単発的にアラームランプとブザー音が動作します。

A&D 株式会社 エー・アンド・デイ